

ア ジ ア 日 誌

9月16日 - 11月20日

世界・国連

9月17日

◆国連安保理事会、緊急総会を開く

9月20日

◆第15回国連総会開く。

◆国連緊急総会終わる。

9月29日

◆第49回列国議会同盟会議、東京で開く。

◆ユーゴ、インド、インドネシア、アラブ連合、ガーナの中立5カ国首脳、国連本部で会談。

9月30日

◆インドネシア、ガーナ、インド、アラブ連合、ユーゴ5カ国首脳、米ソ首脳会談を要請する決議案を国連総会に提出。

10月2日

◆アイゼンハワー米大統領、中立5カ国提案の東西首脳会談を拒否。

10月3日

◆第3回DAG(開発援助グループ)会議、ワシントンで開く。

10月4日

◆ネール・インド首相ら中立4カ国首脳、国連のA・A4カ国秘密会議で米ソ首脳会談開催決議案への支持を要請。

10月5日

◆低開発国援助11カ国委員会終わる。

◆東京で開催中の列国議会同盟のインドなど8カ国議員団、アジア後進国援助決議案提出。

10月6日

◆インドなど5カ国、米ソ首脳会談開催要求決議案を撤回。

10月8日

◆国連総会、中共加盟問題を次回まで持ち越しを決定。

10月12日

◆列国議会同盟東京会議、アジアにおける植民地主義・人種差別・再軍備反対を決議して日程を終えた。

10月17日

◆ECAFE, FAO, BATO(国連技術援助機構)共催の紙・パルプ国際会議、東京で開催。

◆第2回アラブ石油会議、ベイルートで開く。

10月31日

◆コロombo・プラン東京会議開く(31日~11月17日)

11月10日

◆国連総会資格審査委、カサブ大統領に国連コンゴ代表権を与えることを可決。

11月10日

◆A・A連帯評議会、ベイルートで開く。

11月16日

◆SEATO第13回軍事顧問会議、バンコックで開く。

11月17日

◆コロombo計画会議終わる。

11月20日

◆OECD憲章につき、20カ国代表基本的に合意。

東 ア ジ ア

9月16日

◆中国の各民主党派中央委員会拡大会議終わる。

9月17日

◆中国外務省、中国機のインド領空侵犯を否認。

9月20日

◆中国とモンゴル、「中国が労働者を派遣してモンゴルの生産建設を援助する協定」に調印。

◆国連経済開発特別基金、国府に32万ドルの援助を発表。

9月23日

◆中国軍事友好代表団、アラブ連合を親善訪問。

9月24日

◆中国国民党革命委員会第4期中央委員会第2回拡大総会終わる。

9月26日

◆毛沢東中共主席、ウ・ヌー・ビルマ首相らと懇談。

9月27日

◆中国、アフガニスタンとの友好不可侵条約を批准。

9月29日

◆日本政府、イランとの貿易取り決めと経済協力について承認。

9月30日

◆周恩来中国首相、建国祝典でソ連との団結を強調。

◆中国・ビルマ国境合同委員会第4回会議の第2回会談北京で開く。

◆中国政府、ナイジェリアを承認。

◆中国、ルムンバ首相の援助要請に対し、100万ポンドの直接援助を申し出た。

◆毛沢東中国首脳ら、アバス・アルジェリア共和国臨時政府首相と会談。

◆国府新たに国連に加盟した新独立16ヶ国のうち、コンゴ(旧仏領)など7ヶ国と外交関係を結んだと発表。

◆DLF(米開発借款基金)、台湾電力会社に2050万ドルの借款供与の協定に調印。

10月1日

◆中国・ビルマ両国、国境条約正式

調印。

◇毛沢東主席、ギニアのセクー・トーン大統領にメッセージを送る。

◇亡命中のダライ・ラマ、匿所に中共侵略を阻止するよう提訴。

◇コンゴ・中国協会、レオポルドビルで発足。

◇英国政府、アラビア石油問題につき同国シェル石油の利益を侵害しないよう外務省に申し入れ。

10月2日

◇陳毅副首相、建国祝典参加の日本代表団レセプションで日本人の安保闘争を賞讃。

◇中ソ友好鉄道（甘肅省蘭州—アクトガイ間）の最終駅完成。

◇韓国大法廷、前内相 Yin Kyn Che に死刑求刑。

◇シェル石油会社、アラビア石油の原油受け入れを拒否。

10月4日

◇周恩来首相、イギリスのテレビジョン放送で中印国境問題などについて語る。

10月5日

◇中国訪問中のアバス・アルジェリア臨時政府首相、周恩来首相と共同声明を発表。

◇韓国抑留の日本漁船員、釜山から帰国。

◇日立製作所、鉄道車両工場建設でアラブ連合と契約。

10月6日

◇韓国政府、兵力5万人削減を発表。

10月8日

◇日本とベネルックス3国、通商協定調印。

10月11日

◇日本・イラン両国、新貿易取り決めと3000万ドルの経済協力協定調印。

◇学生デモ、韓国民議院に乱入。

10月12日

◇韓国民議院、民主反逆者に対する刑事事件臨時処理法案を可決。

◇韓国、ナイジェリアを承認。

10月13日

◇中国・北鮮両国、4億2000万ルーブルの長期借款および物資技術援助協定に調印。

10月14日

◇京城地方裁判所、民主反逆者らを再度逮捕。

10月15日

◇韓国の革新政改革新統合の新政党結成を申し合わせ。

◇通産省、インドに対し2300万ドルの追加信用供与、インド第3次5カ年計画へ2億5000万ドルの信用供与および延べ払い期間を10年に延期を決定。

10月17日

◇中国と象牙海岸、外交関係樹立を発表。

10月20日

◇韓国政府日韓予備会談の代表団リストを発表。

10月24日

◇ビルマ訪問中の中国貿易代表団、1961年にビルマ米30~40万トン買い付けると発表。

10月25日

◇第5次日韓全面会談の予備会談閉く。

10月26日

◇韓国政府、対米ドル公定レート切り下げ（1ドル=1000ウォン）を発表。

10月27日

◇中国とマリ連邦、外交関係樹立。
◇日本・ベンガル湾岸定期航路の運賃同盟、東京総会で日本からのプラント輸出促進のため東京にプラント類の中央荷受け所設置を決定。

10月30日

◇韓国政府、新自治法を公布。

11月1日

◇日本とインドネシア、ギニア、スペインとの郵便為替再開。

11月2日

◇韓国政府、デモ規制立法化を検討することを閣議決定。

◇ツェデンバル・モンゴル首相ら代表団、モスクワ訪問。

11月4日

◇劉少奇主席ら中国代表団、ソ連訪問。

11月6日

◇毛沢東主席、メッセージでソ首相の平和的共存に対する賞讃。

11月7日

◇中国・インド国境画定に関する両国代表団、ラングーンで会議を開始。

◇中国・ネパール国境委、調査および測量を開始。

11月10日

◇中共とモロッコ、2800億ドルの新貿易協定調印。

11月12日

◇皇太子ご夫妻、アジア・アフリカ4ヵ国訪問に出発。

◇鉄鋼業界は、インドのバイラディラ、ルールケラ両鉄鉱山開発のためバイラディラ開発促進委を設置し、同時に現地に代表部をおくことを決定した。

◇台湾で大軍事演習実施。

◇韓国民主党旧派、新党の名称を「新民党」と決定。

11月13日

◇沖縄の立法院総選挙開始。

11月14日

◇政府、インドネシア賠償第3年度計画了承。

◇韓国に第3の保守党「共和党」発足。

11月15日

◇日本・ビルマ両国、貿易交渉を打ち切り共同声明を発表。

◇韓国国警、逃亡中の前内務部長官張環根に全国手配。

11月16日

◇北京の各紙、農業労働力軽視に警告する『紅旗』論文を掲載。

11月17日

◇李先念中国副総理、ゲバラ・キューバ代表と会談。

11月18日

◇周恩来中国総理、米のカリブ海出動を非難。

◇南北朝鮮統一問題を研究する学生団体「京城大学民族統一連盟」結成

さる。

11月19日

◇北朝鮮最高会議、「南北交流」を提案。

◇北京放送によれば、北朝鮮は大豊作で食糧生産高は380万3000トンに達するみこみ。

◇日本プラント協会、東パキスタンの製鋼プラント建設に協力することを決め、近く調査団派遣。

11月20日

◇日本の総選挙施行。

◇中国科学技術代表団、ワルシャワ着。

◇小坂外相、スバンドリオ・インドネシア外相と通商条約で話し合い。

東南アジア

9月16日

◇インドネシアとルーマニア、技術援助協定に調印。

◇インドネシア共産党機関紙『ハリアン・ラキヤット』発行停止。

9月19日

◇南ヴェトナム政府、エチオピアとの外交関係樹立を発表。

◇インドネシア・中国友好協会第3回全国大会終わる。

9月21日

◇マラヤの藩王会議、シエド・プトラ藩王を新首長に選出。

9月24日

◇ヴェトナム通信の報道によると、南ヴェトナム軍、メコン川下流で共産系反乱分子を掃討。

9月25日

北ヴェトナムの農業会議終わる。

9月26日

◇バクタン・ラオス国王、ノサバン副首相とインシニンマイ経済相の解任を承認。

◇スカルノ・インドネシア大統領、国連総会に出席のため渡米。

9月27日

◇スカルノ・インドネシア大統領、米日し池田首相と会談

9月28日

◇ラオスのプーマ政府軍とノサバン反政府軍の両司令官、和平交渉を開く。

9月29日

◇プーマ・ラオス首相、ラオス全土に停戦命令。

◇インドネシア・カンボジア友好条約を批准。

9月30日

◇ラオスのコン・レ大尉、プーマ首相の停戦命令に反して戦闘を続行すると声明した。プーマ首相はソ連と外交関係を樹立する準備を進めていると語った。

◇ナスチオン・インドネシア国防相、米首脳と対イ援助計画につき会談。

◇インドネシア軍隊、コンゴへ出発。

◇インドネシア政府、南スマトラ開発に関する日本の協力計画を拒否。

◇オランダ陸軍、西イリアンの兵力を増強。

10月1日

◇ラオスの反革命軍降服。

◇米当局、対ラオス援助を中止。

◇インドネシア政府、インフレ抑制のための輸入緩和政策と経済再建8カ年計画を発表。

10月2日

◇ラオス愛国党、政府との交渉開始を決定。

10月3日

◇南ヴェトナムのゴ・ジンジェム大統領、南北ヴェトナムの平和的統一は可能と語る。

◇ラオスの米大使館当局、アメリカの対ラオス援助中止の報道を否定。

◇米、インドネシアに軍事援助を約束。

◇インドネシア、文化協定調印国およびコロンボ・プラン諸国の学生に奨学金を支給すると発表。

◇マラヤ、コンゴ国連軍に640人から成る軍隊を派遣。

10月4日

◇ラオス政府軍、パテト・ラオの本

拠サムネフは政府に引き渡されたと発表。

◇ラオス国王、ソ連との外交関係樹立に同意。

10月5日

◇中共当局、インドネシア在住華僑に対しインドネシアの法律を守るように指令。

10月6日

◇ソ連・ラオス両国、外交関係樹立。

◇スカルノ・インドネシア大統領、アイゼンハワー米大統領と会談。

10月7日

◇米國務省、対ラオス軍事援助の一時停止を発表。

10月8日

◇ラオス政府、パテト・ラオとの和平交渉開始。

◇パーソンズ米國務次官補ら、ラオス問題討議のため同地へ出発。

◇プーマ・ラオス首相、米軍事援助停止が続けば必要な措置をとると声明。

◇カンボジアのシアヌーク首相、辞意を表明。

◇スカルノ大統領、地方立法議会をすべて解散し、大統領の地方行政統制権を強化。

10月9日

◇インドネシア公共事業省、開発5カ年計画発表。

10月10日

◇プーマ・ラオス首相は、ソ連援助を受ける用意ありと声明。

◇インドネシアのナスチオン国防相、シンガポールとマラヤを公式訪問、西イリアン問題を話し合う。

10月11日

◇ラオスのプーマ政府、パテト・ラオとの会談開始。

◇北ヴェトナムの中央委員、9月末現在、同国農家の23%が農業協同組合に加入し、初級集団化が完成したと発表。

10月12日

◇タイ外務省当局、ラオス駐在同国大使館およびビエンチャン在住全タ

イ國人に帰国を命令。

◆ラオスのプーマ首相、パーソンズ米国務次官補と会談。

◆インドネシア外相、カルカッタにおいて第2回バンドン会議開催を提唱。

◆ソ連のパトリチェフ外国貿易相、インドネシア訪問。

10月13日

◆タイのサリット首相は記者団に、米國はラオス政府にパテト・ラオとの交渉を中止するよう要請したと述べた。

◆カンボジア各都市でシアヌーク首相の留任を求めるデモ起こる。

10月14日

◆米のラオス工作失敗し、ラオス政府、パテト・ラオとの会談続行を発表。

◆マラヤのラーマン首相西イリアン問題調停の試案を持って米英兩國へ出発。

◆ソ連、インドネシアに病院を寄贈。

10月15日

◆ビエンチャン放送によれば、アブラモフ駐ラオス・ソ連大使はプーマ首相と会談しラオスの中立政策支持の意向を表明。

10月16日

◆北京放送によれば、タイ国政府はラオスに対する経済封鎖を強化し、対ラオス貿易を禁止したといわれる。

◆タイの政府・軍・工業・学術などの各部門から成る大規模な代表団、オーストラリアを視察訪問。

◆インド紙の報道によると、ソ連はラオスに経済・軍事援助を申し出ている。

10月17日

◆ラオスのプーマ首相、国民議会で反共・中立政策を発表、議会はこれを承認。

◆米政府、ラオス援助再開。駐ラオス・ソ連大使も経済援助申し入れ。

◆パーソンズ米国務次官補、ラオス問題につきタイ首相と協議。

10月18日

◆パテト・ラオ、サムネワ州の政府への引き渡しに同意するとともにプーマ政権との連立を要求。

◆ラオスのプーマ首相は、コン・レ大尉を2週間の軟禁処分にしたと発表した。これは同大使が新ソ連大使の着任に際し、個人の資格で挨拶を述べたためである。

10月19日

◆ラオス愛国党機関誌『ラオ・ハクサト』復刊。

◆インドネシアのナスチオン国防長官は、国民議会の選挙は1962年に行なわれると述べた。

10月21日

◆ラオスのパテト・ラオ党首スファヌボン殿下、プーマ首相の協力要請を拒否。

◆カナダ政府、コロンボ・プランの一環としてマラヤ開発計画に3500万マラヤ・ドル援助を決定。

◆カナダ訪問中のマラヤ首相、西イリアン問題解決の必要を強調。

10月26日

◆英政府、クアラルンプールの英軍基地をマラヤ政府に贈与。

10月27日

◆ラオス政府、ソ連援助を原則的に受諾。

10月28日

◆米國の対ラオス援助再開さる。

10月31日

◆ラオスに各政党、大衆組織などから成る統一委員会設立。(中央委名譽議長プーマ首相、スファヌボン殿下。議長フォンサバン、副議長コン・レ大尉)。

11月1日

◆インドネシア政府、全国石油産業を国営または政府指名の請負業者に移す新石油天然ガス法案を発表。

11月2日

◆タイ政府、ソ連の技術・科学援助申し出を受諾するが、文化援助は拒否すると発表。

◆DLF(米開発借款基金)サイゴンの水道施設改良のため南ヴェトナムへの1750万ドル借款供与を承認。

◆北ヴェトナムのホー・チミン大統

領、モスクワ訪問。

◆オランダ政府西イリアン自決権を与える新方式に関する覚え書きを議會に送付。

◆英・インドネシア兩國、航空協定に調印。

11月3日

◆タイのサリット首相、タイ国はソ連の経済援助受け入れの用意ありと表明。

◆インドネシア、1961年度ビルマ米25万トンを買付けると発表。

11月4日

◆ハノイ放送によると、ゴ・ジンジュン南ヴェトナム大統領は、メコン川デルタ地区の共産系ゲリラ掃討を命令した。

◆ラオスに新政党「平和・中立・協調・統一のための建設機構」誕生。党首はプーマ首相とスファヌボン殿下。

11月5日

◆南ヴェトナム国会、テロ活動に対処する非常手段の立法権を政府に与える法案を採択。

◆米・インドネシア兩國、米余剰農産物1600万ドルの売却協定調印。

◆インドネシア、米余剰農産物1600万ドル買付けを決定。

11月6日

◆フィリピンのセラノ外相来日。

11月7日

◆ソ連、タイに無制限援助を約束。

11月8日

◆フィリピンのセラノ外相、韓国を公式訪問、張首相と貿易促進などについて会談の予定。

◆米、タイ兩國降下部隊合同演習実施。

11月9日

◆ラオスのサムネワ市民集会、ラオス愛国戦線党を含む連合政府樹立と国内統一実現を要求。

11月10日

◆フィリピンのセラノ外相、韓国から日本に向かう。

◆北ヴェトナム当局、北ヴェトナム軍は南ヴェトナムに進出せずとの声

明を発表。

◆インドネシア臨時人民会議(MPRS), バンドンで初会議を開く。

11月11日

◆南ヴェトナムの降下部隊4大隊は早朝、ゴ・ジンジェム政権転覆を目的とするクーデターを起こし、革命委員会のグエン大佐は臨時政府樹立を発表した。サイゴン国際空港は閉鎖された。

◆フィリピンで、フィリピン国家開発公社が日本の造船会社から収賄した事件摘発される。

◆ラオスのルアンブラバン守備隊は、ノサバン側に寝返ったといわれる。

11月12日

◆南ヴェトナム・クーデター失敗に終わり、政府は反乱分子に大赦を与えると声明。

◆ラオス政府、ルアンブラバンにおける反乱につき協議。

◆マラヤのラーマン首相、中共、国府に国連加盟を認めるよう米英に提案。

11月13日

◆南ヴェトナム・クーデター指導者、カンボジアへ逃亡。

◆北ヴェトナムと北鮮、長期貨物交換協定調印。

◆ラオスのプーマ首相は「政府はバッタナ国王の決定は反乱軍が強制している疑いがあるから受けられない」と述べた。

11月14日

◆ラオスのプーマ首相、王都ルアンブラバン奪回のため攻撃を開始すると声明。

11月15日

◆ラオス国民議会、ノサバン派との交渉提案。

◆インドネシアと米政府、第3次余剰農産物処理協定の基本契約に調印。

11月16日

◆南ヴェトナム政府、すべての部門にわたり広範な改革を行なうと発表。

◆南ヴェトナムに反共矯正機関「共産主義者、反乱者に反対する民衆委

員会」設立。

◆ラオスのプーマ首相、「米国はノサバン派を支持している」と非難。

◆ラオスのプーマ首相と愛国戦線党代表団、次の3点で意見が一致したと発表。中国、北ヴェトナムへ外交代表団派遣、ラオス、北ヴェトナムとの郵便電信関係回復、中国と友好関係樹立。

11月17日

◆ラオス王国政府と愛国戦線党代表団、連合政府樹立に意見一致。

◆ラオスのサバナケット放送によれば、陸軍参謀長ウァン、ラチコウン將軍はノサバン側に参加した。

◆マラヤのラーマン首相は、西イリアン問題について22日以後オランダ政府との会談を申し入れたと述べた。

11月19日

◆北ヴェトナムのファン・バンドン首相、ラオスのプーマ首相に対し、政府代表団を招待。

◆米当局は、プーマ・ラオス首相がパテト・ラオとの連立内閣を作れば対ラオス援助の削減あるいは停止を考慮すると声明。

南 ア ジ ア

9月18日

◆ネール・インド首相、中国・インド国境会議の中国代表と会見。

9月19日

◆ネール・インド首相とアユブ・カーン・パキスタン大統領、インダス川水利協定に調印。

9月20日

◆カラチ訪問中のネール・インド首相、アユブ・カーン・パキスタン大統領と会談。

9月21日

◆ネール・インド首相とアユブ・カーン・パキスタン大統領、カシミール問題を討議。

9月26日

◆エンクルマ・ガーナ大統領とネール・インド首相会談。

9月27日

◆ビルマ軍事親善代表団、中国を訪問。

◆ネール・インド首相とチトー・ユーゴ大統領会談。

9月28日

◆ウ・スー・ビルマ首相、中国を訪問。

9月30日

◆セイロン、インドからの不法移民取り締まり強化を発表。

◆米農務省、パキスタンに870万8000ドル相当の米国余剰米買付け権限を付与。

10月1日

◆インド商工省、外貨流出防止のため、電気器具など107品目の輸入制限を発表。

◆パキスタン訪問中のソ連地下資源調査団帰国。

10月3日

◆パキスタンの国連代表とユーゴのチトー大統領、ヨルダンのフセイン国王と会談。

◆パキスタンのラーマン商務相、輸出促進のため国民に茶を節約するよう要請。

◆セイロン政府、繊維品輸入一部制限を発表。

◆ネパール政府、国の根本的行政区分を再編成、全国を3つに大別すると発表。

10月4日

◆インド代表団、中印国境問題について最終的会談のためラングーン到着。

◆パキスタン、アフガニスタン政府に、最近の両国国境へのアフガン軍集結と侵入に抗議。

◆パキスタン国連代表、ナセル大統領と会談

◆セイロン、2大新聞を政府統制下に置く法案を準備。

10月5日

◆インド紙、中国軍のシッキム侵入を報道。

◆インド、アジア・アフリカの留学生60人に奨学金を支給することに決定。

◇インド、チュニジア、総額1550万ドルの貿易協定に調印。

◇インド・アフガニスタン、現行貿易協定延長に決定。これに伴いインドの貿易使節がアフガニスタンを訪問。

10月6日

◇中印国境問題の資料調査と会談のため訪印中の中国代表はその第2段階の会談を終わり帰国した。

◇パキスタン第2次経済開発5ヵ年計画に対する金融援助討議のため、パキスタン債権国会議ワシントンで開催。

◇アユブ大統領、パキスタンはカシミール問題解決までインドを信用せずと声明。

10月7日

◇アユブ大統領、パキスタンはカシミールの休戦ラインに満足せずと声明。

10月8日

◇ネパールは中国との国境紛争解決の最初の試みとして両国代表を国境地帯へ送ることに決定。

10月10日

◇インド最高裁長官、日本の最高裁判所を訪問。

10月11日

◇米輸出入銀行、パキスタンへ640万ドルの借款供与を発表。

11月12日

◇外園貿易相を团长とするソ連貿易使節団訪印。

10月14日

◇インド経済開発に伴う国民所得の分配状況の調査委員会設置。

◇アメリカ政府、ボンベイ近郊の大肥料プラント建設資金全額調達を受諾。

◇日本の織物機械工業代表団、パキスタンに到着。

◇訪印中のソ連貿易相ランゲン訪問。

10月15日

◇インドとポーランド、貿易協定を更新。

◇インド政府、ソ連からヘリコプタ

ーなど機械設備の買入れを決定。

◇セイロンの科学者、オーストラリアの科学者との交流を提唱。

10月16日

◇インド政府当局者、ソ連から航空機買い付けのためモスクワに出発。

◇インド最初の農科大学北インドに開校。

◇セイロン議会、政府の私立学校に対する統制力を強化する法案を通過。

◇ビルマのタキン・ティン蔵相ら来日。

10月17日

◇パキスタン政府の同国高等医学研究所へ学生を送るようにとの申し出を、ビルマ、インドネシア、セイロン、アフリカ諸国など11ヵ国が受け入れた。

10月18日

◇インド、パキスタン鉄道会談終わる。両国の越境旅行者の便宜をはかることに意見一致。

10月19日

◇アメリカ、インド政府に対し1億2000万ルピーの借款供与を承認。

◇パキスタンのショアイブ蔵相来日。

10月20日

◇パキスタン政府、日本織物機械使節団と1億ルピーの織物機械買い付け取り決めを結んだ。

10月21日

◇米政府、インド政府に対する2500万ドルの借款を承認。

10月22日

◇セイロン政府、香港からの輸物輸入制限発表。

10月24日

◇インド・ソ連両国、今後3年間に貿易量を3倍にする協定に調印。

10月25日

◇インド・ユーゴ両国、61年度通商協定調印。

10月27日

◇ネパール政府、西ネパールのゴルカ地方で政府転覆運動が起こり、警

察に鎮圧されたと発表。

10月31日

◇日本、ビルマ貿易会談開く(1~8日)。

11月1日

◇インド航空、デリー・カトマンズ間就航開始。

◇パキスタン、フィンランドと貿易一般協定締結のための交渉開始に決定。

◇北京放送、ハンガリー・ビルマ両国の外交関係樹立を報道。

11月2日

◇カルカッタで日本文化展開く。

11月4日

◇インド・チェコ、平等互惠の基礎に立つ新貿易協定に調印。

◇インド、国連で国連憲章修正検討のための委員会設置を提案。

◇日本鉄鋼業代表団ニューデリー到着。

11月5日

◇パキスタンのアユブ・カーン大統領、アラブ連合を公式訪問。

◇ビルマ・北鮮貿易関係開く。

◇ビルマのウ・トイン貿易相来日。

11月6日

◇ブラサド大統領、ネール首相、ソ連10月革命記念日に際してメッセージを送る。

11月7日

◇ビルマのウ・トウイン貿易相、日本に対しビルマ米買い付けを要望。

11月10日

◇ビルマのウ・ヌー首相訪印。

11月12日

◇ネール首相とウ・ヌー首相、ニューデリーで会談、インド・中国国境紛争について調停を試みる。

◇アラブ連合のナセルとパキスタンのアユブ・カーン両大統領、緊張緩和につき共同コミニケを発表。

11月14日

◇インド政府、インダス水利協定を批准。

◇インド政府は下院に中印国境紛争に関する白書を提出し、その中で中

アフリカ

共軍のシッキム地区侵入に抗議したことを明らかにした。

◇インド政府、東ドイツとの貿易協定に調印、1961年より実施の予定である。

◇メンジース・オーストラリア首相はインダス水利計画に700万ポンドの援助を与える法案を議会に提出した。

◇ウ・ヌー・ビルマ首相、ネール首相との会談を終えて帰国。

11月15日

◇メノン・インド外相、国連政治委員会に完全軍縮に関する新決議案を提出。

西南アジア

9月16日

◇ワシントン輸出入銀行、アラブ連合に2250万ドルの借款を供与すると発表。

9月23日

米国、ヨルダン政府に9月の予算赤字を埋めるため330万ドルを援助供与。

9月25日

◇イラク、ソ連との経済・技術協力協定を批准。

◇イラク軍事友好代表団、中国を友好訪問。

◇アラブ連合のナセル大統領、キューバのカストロ首相と会談。

9月26日

◇米農務省、イランに小麦または小麦粉の買い付け権限を付与。

9月31日

◇チランケビッチ・ポーランド首相とダウド・アフガニスタン首相、両国共同声明に調印。

10月1日

◇ヨルダン政府、イラクのカセム政府を承認し2年ぶりに外交関係を回復。

10月7日

◇フセイン・ヨルダン国王、アイゼ

ンハワー米大統領と会談。

10月17日

◇アルゼンチン・イスラエル両国国交再開。

10月18日

◇イラン、対日輸入制限撤廃を決め即日実施。

◇アラブ連合、ヨルダンの国境侵犯を非難。

10月19日

◇DLF、イスラエルに600万ドル融資。

10月20日

◇ヨルダン・イラク両国間の輸送および通信再開。

10月21日

◇アフガニスタン国王、アラブ連合訪問に出発。

10月23日

◇DLF、アラブ連合シリア地区に対し500万ドル借款供与。

10月25日

◇イラク・ソ連両国、イラクの国営農場設立その他に対するソ連の援助協定に調印。

10月26日

◇アラブ・ユーゴ両国、60/61年度文化・協力計画調印。

11月2日

◇ユーゴ・アフガニスタン両国、科学・文化協定調印。

11月4日

◇アユブ大統領サウジアラビア訪問を終わりアユブ・サウド共同声明を発表。

11月6日

◇イギリスとアラブ連合共和国は、両国の大使交換を12月1日に延期した。

11月14日

◇東独代表団、来年度の通商拡大のためアラブ連合訪問。

11月20日

◇アラブ経済連盟臨時理事会、欧州共同市場に対抗してアラブ共同市場創設を提案。

9月16日

◇モブツ軍司令官指揮下のコンゴ軍兵士、ルムンバ首相および側近幹部全員を逮捕。

9月18日

◇ルムンバ・コンゴ首相とカサブ大統領和解宣言に署名。

9月20日

◇レオポルドビルの雷連軍筋によると、カタンガ州で大虐殺事件起こる。

9月28日

◇サウジアラビアのジッタで、同国訪問中のセクー・トーレ・ギニア大統領とサウド国王、共同声明を発表。

10月1日

◇ナイジェリア共和国独立。

10月19日

◇モーリタニア独立。

10月27日

◇全アフリカ自由運動会議、中央アフリカ連邦即時解体への努力と、モンクトン報告拒否を決議。

11月2日

◇象牙海岸国会、新憲法を可決。

11月7日

◇東アフリカの英保護領ザンジバル、1961年1月の総選挙後に自治政府をもつことに決定。

11月9日

◇ニジェール初代大統領にハマニ・ディオリ氏決定。

11月10日

◇アジア・アフリカ人民連帯委執行委員会ベイルートで開く。

11月11日

◇コンゴのルムンバ首相、国連に対し国民投票を提唱。

11月17日

◇ガボン共和国のムバ首相、6か月間の国家非常事態を宣言。